

感染症発生動向調査委員会報告 2月

今月のトピックス

- インフルエンザは減少傾向に転じています。
- インフルエンザ迅速診断用検査キットによる型別の集計ではB型が優勢になりました。
- MRワクチン ・ ・ 期及び横浜市緊急接種対象者には3月中の接種をお勧めください。

【患者定点からの情報】

市内の患者定点は、小児科定点：88か所、内科定点：57か所、眼科定点：18か所、性感染症定点：26か所、基幹(病院)定点：3か所の計192か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の13感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計145定点から報告されます。

平成21年 週 - 月日対照表

第4週	1月19～25日
第5週	1月26～2月1日
第6週	2月 2～ 8日
第7週	2月 9～15日
第8週	2月16～22日

平成21年1月19日から2月22日まで(平成21年第4週から第8週まで。ただし、性感染症については平成21年1月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

全数把握の対象

< 麻しん >

2008年から感染症法における5類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)

2009年2月は26日現在で5例の報告があり、うち3例は予防接種を1回受けていました。

ひと月で100例以上の報告があった2008年に比べてかなり少なくなっていますが、未だ患者発生がありますので、麻しんにかかっていない方は予防接種を2回受けることが大切です。

2012年の麻しん排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

横浜市では、緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施しています。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>

横浜市の緊急対策は2009年3月31日で終了します。

1歳～高校3年生に相当する年齢の未接種・未り患者は、この機会に接種していただくことが重要です。

横浜市の詳細については、「横浜市における麻しん患者届出状況」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/measles/measles.html> をご覧ください。

《日本は、2008年～2012年の5年間で、麻しん排除を目指します》

風しんとともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握

1歳および就学前1年間の、麻しん風しん混合ワクチンによる2回接種の徹底

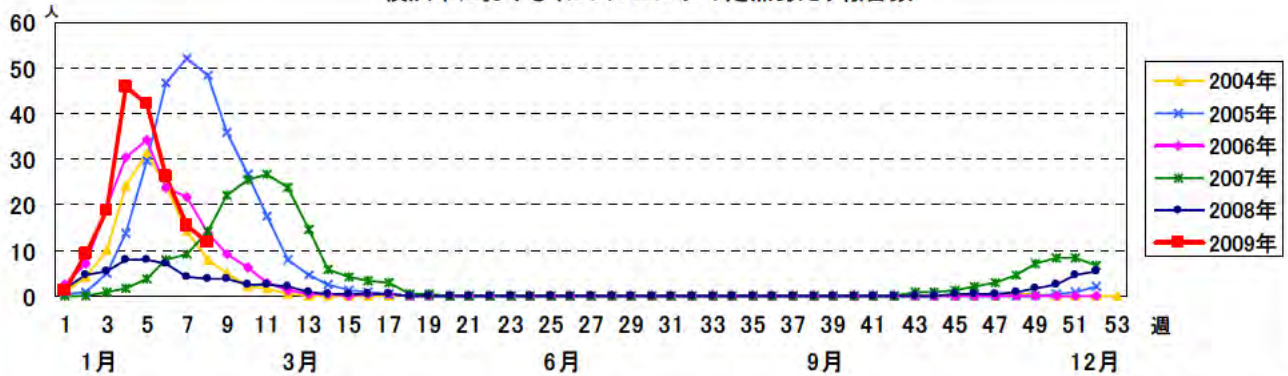
5年間に限り、中1及び高3相当の年齢の者への定期接種を実施

定点把握の対象

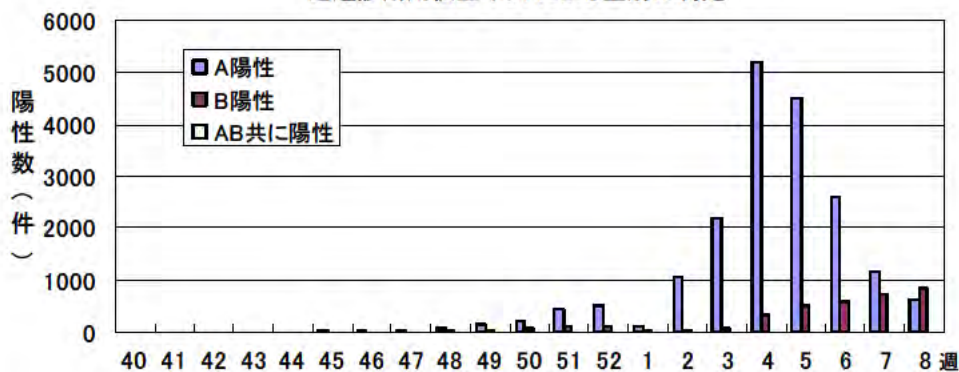
<インフルエンザ>

今シーズンは、過去5年間で最も流行開始が早かった昨シーズンに次いで早く、2008年第49週に流行の目安となる「定点あたり報告数1.0」を超え第4週に45.98と警報レベルの流行となりましたが、その後減少し、第8週は定点あたり報告数11.54となっています。行政区別では、都筑区(24.29)、瀬谷区(22.86)、泉区(20.00)、磯子区(15.00)、緑区(13.00)、保土ヶ谷区(12.13)の順で多く報告されており、警報水準を超えている区はありません。神奈川県(横浜、川崎を除く)は11.88、川崎市は10.04、全国は12.05でした。

横浜市におけるインフルエンザの定点あたり報告数



横浜市内の患者定点医療機関における迅速診断用検査キットによる型別の判定



迅速診断用検査キットによる型別の集計では、第8週にA型610件、B型853件、A・B共に陽性7件の報告があり、B型が優勢になりつつあります。また、2008年第46週以降、病原体定点と集団かぜの検体からのインフルエンザウイルスの分離・検出数は併せて118件あり、

その内訳はAH1(ソ連型)62件(52.5%)、AH3(香港型)33件(28.0%)、B型23件(19.5%)となっています。

学校等における集団かぜは2009年2月21日までに施設閉鎖11施設(11施設)、学年閉鎖13施設(14学年)、学級閉鎖92施設(122学級)の報告がありました。

AH1(ソ連型)分離株は遺伝子解析を行った51株すべてからオセルタミビル耐性を示唆する遺伝子変異が認められました。また、AH3(香港型)分離株は、遺伝子解析を行った19件すべてにアマンタジン耐性を示唆する遺伝子変異が認められました。

横浜市インフルエンザ流行情報もご覧ください(薬剤耐性検査の情報等より詳細な情報があります)。

http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/influenza_rinji_index2008.html

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

例年、春季を中心とした流行の後に夏季には大きく低下し、また冬季の流行に向かって増加します。昨年は、第34週に最低値となった後、細かな増減はあるものの増加傾向が続き、第49週には定点あたり2.52となりました。年末年始に少し減少しましたが、その後やや増加し2009年第8週は1.47でした。行政区別では港北区(5.00)が高く、次いで緑区(4.50)、保土ヶ谷区(3.40)、港南区(2.40)となっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は2.28、川崎市は3.39、全国は2.15でした。

< 感染性胃腸炎 >

昨年は、第43週から増加の兆しが見られ、第51週の定点あたり報告数は18.51と、今シーズンで最も高い値となりました。その後減少し、2009年第8週は4.88となりましたが、ノロウイルスによる集団感染の報告もありますので注意が必要です。行政区別では港北区(8.29)、戸塚区(7.67)、緑区(7.50)、西区(7.33)が高くなっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は5.56、川崎市は6.67、全国は7.04と、いずれも横浜市より高い値です。

< 水痘 >

例年、年末年始にかけて発生が増加しますが、2009年第2週の定点あたり報告数は3.67と、過去5年間で最も高い値となりました。その後減少し、第8週は1.95と、現在は例年並みの水準で推移しています。これから春にかけて例年流行しますので、注意が必要です。行政区別では泉区(5.75)、瀬谷区(4.50)、都筑区(3.80)、緑区(3.50)が高くなっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は1.51、川崎市は1.36、全国は1.68でした。

< 性感染症 >

性感染症は、産婦人科系の11定点、および泌尿器科・皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。

1月は、2008年12月に比べて全体としては横ばいですが、尖圭コンジローマが昨年の同時期と比べて多くなっています。19歳以下の若年層については、男性は性器クラミジア感染症で1例、性器ヘルペスウイルス感染症で1例、淋菌感染症で1例、女性は性器クラミジア感染症で2例、淋菌感染症で1例と、多くはありませんが、女性の性器クラミジア感染症に10～14歳の感染者もあり、低年齢化が懸念されます。

2月18日に発表された厚生労働省エイズ動向委員会報告によりますと、2008年の年間報告の速報値は、国内で新たに報告されたHIV感染者数は1113人、エイズ発症者数は432人とともに過去最高で、HIV感染者は6年連続、エイズ発症者は3年連続の増加でした。

(エイズ動向委員会報告 http://api-net.jfap.or.jp/mhw/survey/mhw_survey.htm)

【病原体定点からの情報】

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:5か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所、の計17か所を設定しています。検体採取は、小児科定点8か所を2グループに分け、4か所ごと毎週実施し、インフルエンザ定点は特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。眼科と基幹定点は、対象疾患の患者から検体採取ができた時に随時実施しています。

衛生研究所から

<ウイルス検査>

2009年2月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点56件(鼻咽頭ぬぐい液50件、糞便6件)、内科定点14件(鼻咽頭ぬぐい液)、眼科定点1件(結膜ぬぐい液)、基幹定点5件(鼻汁4件、髄液1件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎40人、胃腸炎6人、発熱のみ4人、発疹4人、関節痛1人、頭痛1人、内科定点は気道炎6人、関節痛6人、発熱のみ1人、頭痛1人、眼科定点は流行性角結膜炎1人、基幹定点はインフルエンザ3人、脳炎1人でした。

3月10日現在、小児科定点では、気道炎患者5人からインフルエンザウイルスAH1型(以下AH1型)、関節痛患者1人からインフルエンザウイルスAH3型(以下AH3型)、気道炎患者11人、発熱のみの患者3人からインフルエンザウイルスB型(以下B型)、気道炎患者1人からアデノウイルス2型が分離されています。また、内科定点では、気道炎患者1人、関節痛患者2人からAH1型、気道炎患者2人からAH3型、関節痛患者1人、頭痛患者1人からB型、基幹定点では、インフルエンザ患者3人のうち1人からAH1型、1人(2検体)からAH3型が分離されています。

これ以外にPCR検査では、小児科定点の気道炎患者8人、発熱のみの患者1人からAH1型、気道炎患者1人からAH3型、発疹患者2人からコクサッキーウイルスA9型、発疹患者1人からヒトパルボウイルスB19型の遺伝子が検出されています。また、B型が分離された気道炎患者11人のうち1人からAH1型の遺伝子が検出されました。内科定点では、気道炎患者1人、関節痛患者1人からAH1型、気道炎患者1人、関節痛患者1人からAH3型の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

<細菌検査>

2月の感染性胃腸炎関係の受付は8件で検出されませんでした。溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体の受付は8件でA群溶血性レンサ球菌が6件検出されました。

【 感染症・疫学情報課 検査研究課 ウイルス担当・細菌担当 】